

(4) 南 関 東



南関東地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善している。

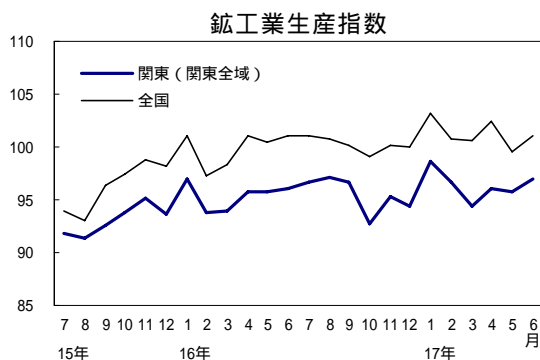
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 17 年 5 月)	今回 (平成 17 年 8 月)	
個人消費	おおむね横ばい	持ち直しの動きがみられる	
住宅建設	減少	増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。(関東全域)

一般機械は、フラットパネル・ディスプレイ製造装置が国内外向けに堅調であったことなどから、2四半期連続で増加した。化学は、定期改修による影響等もみられたが、石油化学品製造用触媒が堅調に推移したことなどから、おおむね横ばいとなった。輸送機械は、法令改正による駆け込み需要の影響で前期大きく伸びた鋼船の反動減により、3四半期ぶりに減少した。情報通信機械は、大型コンピュータの生産は増加したものの、新機種発売に向け前期好調であった携帯電話の反動減により、全体としては減少に転じた。電気機械は、アルカリ蓄電池が車載向けに伸びたことなどにより、4四半期ぶりの上昇となった。



- (備考) 1. 12年=100、季節調整値。
2. 平成17年6月の関東は速報値。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

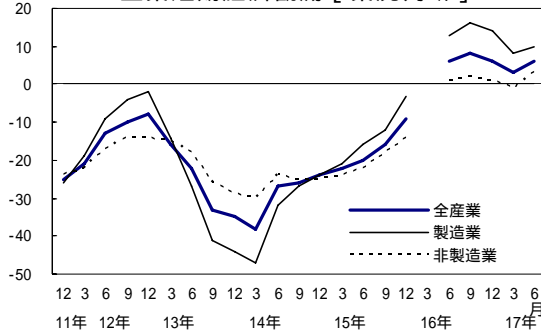
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 期	4~6 月期	4~6 月期
一般機械	13.8	0.7	1.8	1.0	8.9
化学	13.7	5.4	0.3	1.1	1.0
輸送機械	11.3	13.3	4.2	5.0	4.5
情報通信機械	8.6	11.4	6.3	6.2	7.6
電気機械	7.9	3.5	5.6	6.6	6.6
鉱工業	100.0	2.4	0.2	0.6	3.1

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 4~6月期は速報値。
3. 4~6月期の化学の生産、出荷については、4月、5月
確報値の平均より算出。在庫については、5月確報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

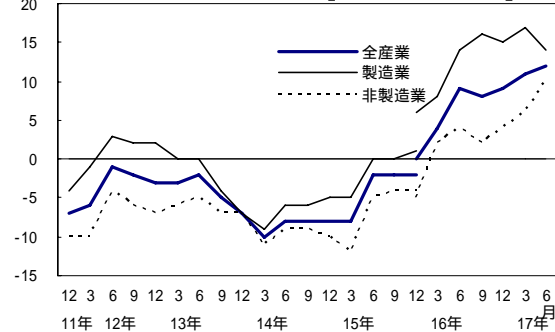
(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。

旧基準は15年12月まで。新基準は16年6月から。
関東全域(新潟県を含む)

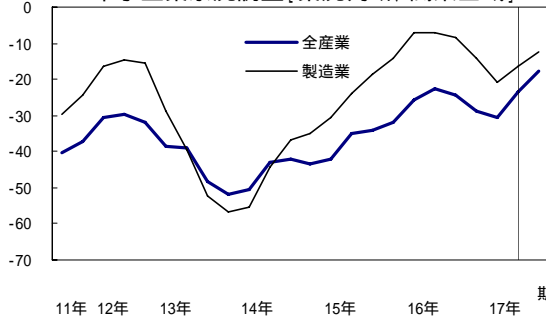
(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。

15年12月は新・旧基準を併記。
旧基準は関東全域、新基準は神奈川県。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断、関東全域]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「6月まで多かった起業関連の相談が減少する一方で、経営革新の相談は増加している。新たな取組を開始しようという企業の動きがみられる(経営コンサルタント)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

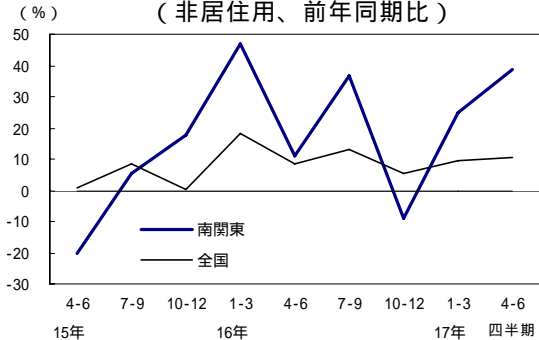
企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	16年度実績	17年度計画
全産業	23.0(1.8)	20.5(13.0)
製造業	26.8(2.9)	27.0(17.4)
非製造業	15.0(0.8)	5.1(1.9)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

調査対象は神奈川県。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

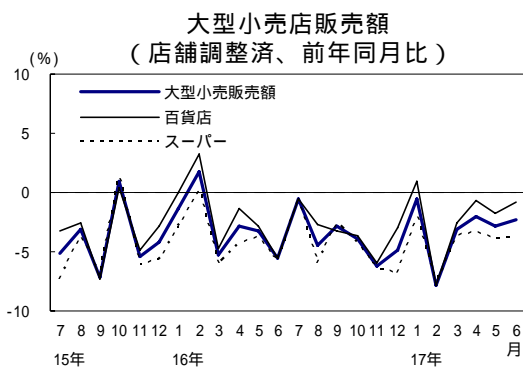
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月は、改装や閉店セール効果等により身の回り品や家庭用品に動きがみられたが、主力の衣料品が伸び悩んだことなどにより、全体では減少となった。5月は、4月に引き続き閉店セール効果等により家庭用品に動きがみられたが、中旬以降の気温低下等により夏物衣料が伸び悩み、全体では減少となった。6月は、気温上昇やクールビズの効果等により紳士服・洋品が好調で、身の回り品等にも動きがみられたが、全体としては5か月連続の減少となった。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の7月の売上高総額は前年同月比1.2%増となっている。

スーパーは、主力の飲食料品が伸び悩んだことなどから、16か月連続で前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

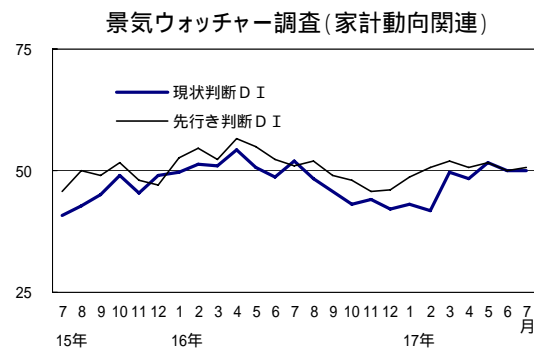
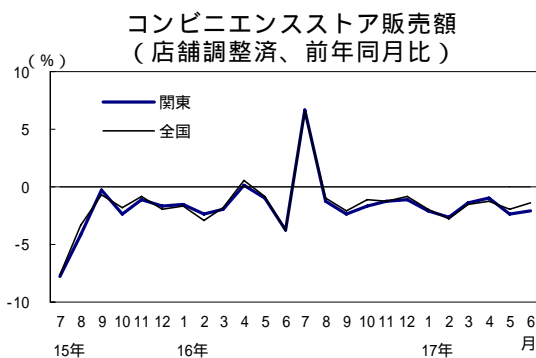
「貸店舗等の撤収が相変わらず続いている。アパート関係についても、リストラのためになくなくてはならないというような客が今月はやや多い(住宅販売会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	16年7-9月	10-12月	17年1-3月	4-6月
大型小売店	2.5	5.0	3.6	2.4
百貨店	2.0	4.1	2.9	1.1
スーパー	3.1	6.0	4.4	3.7
コンビニ	1.0	1.3	2.1	1.8
景気ウォッチャー	48.8	43.0	44.8	50.0

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。17年4-6月期は速報値。コンビニは関東全域。

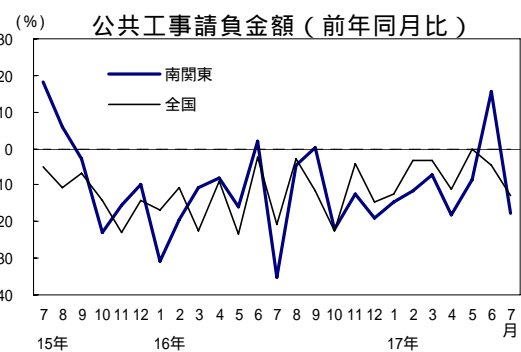
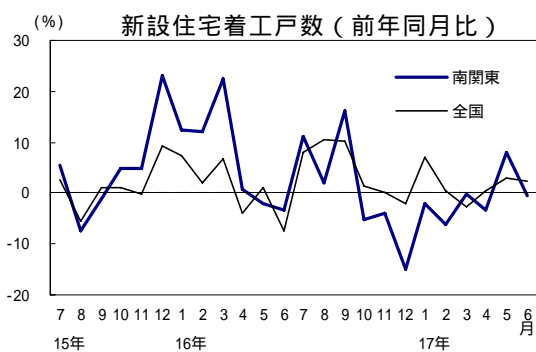
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

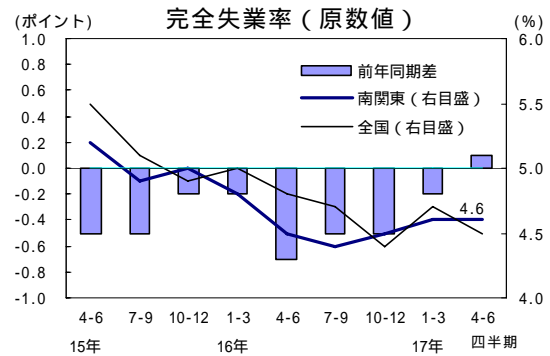
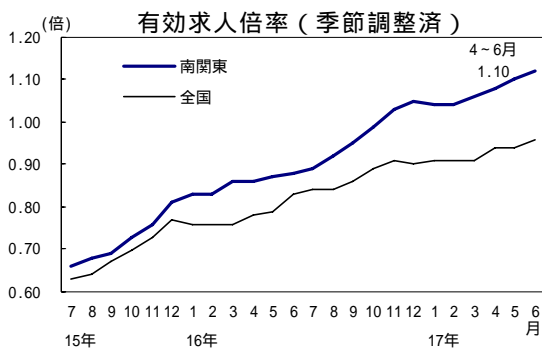
持家が前年を下回ったものの、貸家、分譲が上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度を下回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は改善している。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

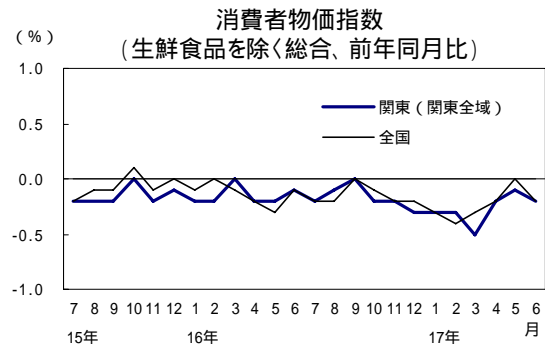
「求人累計数が前年比で約20%伸びている（学校[専修学校]）」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「求人数は増えているが、収益重視で条件の悪い求人が多く、人が集まらない（新聞社[求人広告]）」など、「変わらない」とする回答もみられた。

- (2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

- (3) 消費者物価指数は下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年7-9月	10-12月	17年1-3月	4-6月	17年7月
倒産件数	1,080	1,007	940	915	301
(前年比)	10.6	13.4	19.8	14.9	10.9
負債総額	7,251	7,080	6,518	4,466	1,918
(前年比)	46.2	10.2	49.4	40.8	43.1



景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- ・シャツや雑貨の売上は好調であるが、クールビズによる必要に迫られた購入が多く、景気が良くなったとは言えない（衣料品専門店）。

<先行き>

- ・一部企業は、魅力ある募集を出せば優秀な人員が集まることに気付き、脱派遣、脱請負に社内体制を変えつつある。秋口にはそのような募集広告が増加し、求職者の動きは活発になる。しかしその反動で、能力主義、給与格差はますます進む（新聞社[求人広告]）。

景気ウォッチャー調査（合計）

